

組NEWS合

Faculty and Staff Union of Kanazawa University
発行：金沢大学教職員組合執行委員会
住所：金沢市角間町 角間内線2105
直通電話(076)262-6009 (FAX同じ)
E-mail kanazawa@ku-union.org
ホームページ http://www.ku-union.org/

2008年 8月19日

通巻1089号

この号の内容

8月11日2008年人勤について	1P
運営費交付金3%削減反対声明	1P
他大学学長3%削減反対の緊急声明発表	2P
教員免許講習への教職員への処遇について	2P
出されましたか？教員アンケート	2P
スイカの味も格別 - 地引き網報告 -	3P
教研集会・ふれあいコンサート報告	4P

声明 国立大学法人運営費交付金の3%の大幅削減等の閣議決定に抗議し 高等教育費の増額を求める

2008年7月29日 全国大学高専教職員組合中央執行委員会

政府は、本日(7月29日)午後閣議を開き、2009年度予算の枠組みとなる概算要求基準(シーリング)において、医師不足や環境対策、技術開発等の「重点化枠」に約3300億円をあてるため、国立大学・高専運営費交付金、私学助成費等について、「骨太方針2006」で決定されたシーリングマイナス1%枠(対前年度予算比1%減額)をさらに拡大し、マイナス3%とすることを決定した。これにより、国立大学、高専等の運営費交付金の大幅削減は避けられない状況である。私たちは、この閣議決定に対して、強い憤りを表明するとともに、以下5点の問題点を指摘し、国立大学等運営費交付金など高等教育関係費大幅削減の見直しを要求するものである。

第1に、運営費交付金は、「政策的経費」とされ、3%削減の対象とされているが、実際には、光熱水量費、事務費、人件費等大学等の日常運営を支える「義務的経費」であり、これを削る根拠は希薄である。そもそも、国立大学法人法等の成立時の附帯決議「国は、高等教育の果たす役割の重要性にかんがみ、国公立全体を通じた高等教育に対する財政支出の充実に努めること」に照らしても運営費交付金等の大幅削減は国会

決議に反する許し難い暴挙である。

第2に、3%のマイナスシーリングにより、運営費交付金が大幅に削減されれば単科大学をはじめ、地方大学、高専の存立自体を危うくすることは必定である。すでに、国立大学等が法人化されて4年連続して運営費交付金は毎年減らされて、すでに計602億円の減額、これは一橋大学10校が消える金額である。

第3に、運営費交付金1%、病院経営改善係数2%が毎年削減され、運営費交付金だけで研究教育を進めることができない大学がほとんどである。「研究教育用の実験器具が更新できない。」「講義のための参考資料等は教員が手出しでまかなっている。」のが実状である。運営費交付金だけでは研究教育を遂行できないため、大学等は自助努力で「競争的研究資金」外部資金を獲得して、運営資金を確保しなければならない。

第4に、さらに追い討ちをかけるように、人件費削減5%問題が大学の研究教育を圧迫している。それに伴い、教職員の業務は多忙化の一途を辿り、離職率の増加やメンタルヘルス問題など、急速に労働環境の悪化が進行している。

(次ページに続く)

2008年人事院 時短の実施や超勤の縮減、非常勤職員の期末手当支給等に言及 俸給の引き上げや一時金の改定には「見送り」勧告

人事院は8月11日国家公務員の給与と勤務時間に関する勧告を国会と内閣に対して行いました。この勧告は、俸給、一時金を据え置くとするもので、現実的にこの公務員賃金に大きく影響を受けている私たちにとって、到底納得できるものではありません。一方、「8時間」という時代錯誤の勤務時間の改訂や健康問題、非常勤職員の待遇問題に一定の改善提案を行っていることもあり、その点での早期実施を強く求めていく必要があります。

詳しくは全大教新聞8月11号(人勤特集号)をご覧ください。



第5に OECD諸国の中でも、日本政府の高等教育への公的支出は0.5%と最低水準にありながら、「教育振興基本計画」にも最終的に数値目標は盛り込まれなかった。経済のグローバル化の中で、欧米諸国が高等教育への投資を重視している状況とは対照的である。

上述したように、国立大学等の現状は、憂慮すべき事態にあり、運営費交付金は、増額こそ必要である。減額は、国立大学等の衰退、ひいては高等教育総体の衰退をもたらすのみである。

私たちは、政府及び国会に対して、国立大学等の運営費交付金の大幅削減を見直し、高等教育費増額の方向に政策の舵をきることを強く求めるものである。

また、私たちは「日本の未来のため、高等教育に必要な予算は確保すべきだ」と社会に理解と支持を得る社会的応援団形成の取り組みをさらに強化していくものである。

運営費交付金3%の大幅削減に (閣議決定内容)に対して 各大学学長、緊急声明発表

- 7月24日 福井大学 福田 優学長
- 7月28日 福島大学 今野順夫学長
- 7月28日 愛知教育大学 松田正久学長
- 7月31日 (北東北国立3大学連携推進会議)
弘前大学 遠藤正彦学長、
岩手大学 藤井克己学長、
秋田大学・吉村 昇学長

< 8月8日現在調査状況 >

他大学情報

教員免許更新講習の教職員への処遇等について



群馬大学 今年度については非常勤講師の手当に準ずる額(7000~8800円/時)。来年度については、おそらく同様の額の支出という前提で現在動いているようです。

事務体制は、4月から専任の事務補佐員が置かれ、あとは学部の事務長、教務係長が中心にとりまとめ、本実施では到底これでは回らないので、学部長を通じ法人に増員を働きかけ中。

鳥取大学 今年度は文科省に5,600円/時で申請したので、この金額が講師に支払われる予定。来年度以降のことは正式に決定していない。

高知大学 今年度は8,000円/時を支給予定、次年度からは支出予定ですが、金額は未定。

事務体制については、学務部学務課が所掌。
<学務部長、学務課長、課長補佐1、専門職員1(以上兼任)
再雇用職員1(週4日)、パート職員2(週4日、週3日)>

富山大学 今年度は文科省単価の8,800円/時。土日担当した事務職員は、今年度は休日振り替えで対応した。また、今年度は、4ヶ月限定でパート職員を雇って対応。来年度はもっと業務が増加するので、担当職員を増やす必要がある。

全大教 / 「教員の研究・教育・勤務条件改善アンケート」

教員の
皆さん

組合へ届けていただけましたでしょうか

国立大学教員の
研究・教育・勤務条件改善に関する
アンケートのお願い

全国大学高専教職員組

組合では現在、全大教の「教員アンケート」に取り組んでいます。もう記入して組合へ届けていただけましたでしょうか。

このアンケートは、教員の研究・教育環境や、勤務条件の実状を把握し、その改善を図ることを目的に実施しているもので、これをもとに、全

国の教員の要求運動の促進と、組織強化をはかるものです。

法人化5年目を迎え、第2次中期目標という次のステップへさしかかる今、しっかりと問題点を集約し、改善の取り組みへ繋げていきましょう。

まだ、提出いただけていない方は、是非早めに、ご協力をお願いします。

海岸で半日の～んびり 子供たち割ったスイカは味格別

7月12日に白尾海岸で地引網・バーベキューが開催されました。ここ数年、子供たちと参加している組合の楽しみな行事です。

今年は、残念ながら、早朝の強風のため波が高く、網を下ろすことができなくて、地引網を行うことはできませんでしたが、その分、バーベキューが盛り上がりました。牛肉、豚肉、鳥肉に始まり、もやし、タマネギ、かぼちゃなど新鮮な野菜もどんどん炒められてゆきます。新鮮なイカの刺し身やホタテの肝も大きな貝殻に盛りつけて供され絶品。厚揚げの焼き物が意外においしく、好評でした。



7月12日に、白尾海岸に行きました。地引き網漁をするはずだったけど、波が高くてあみが引けませんでした。かわりに、海でいっぱい遊びました。

さい初は、水着を着るのがめんどくさいな、と思ったけど足だけじゃ物足りなくなって、水着に着がえました。海に入って、波にのって遊びました。

ご飯を食べた後、同じグループの初めて会う女の子が、「何してるの?」と声をかけてくれて、いっしょに遊んだり、水をかけ合ったりしました。その内、やきそばができたよ、

休む間もなく、鉄板の上には焼きそばが用意され、参加者に振舞われました。

子供たちは波間に遊び、海の雰囲気を楽しんでいました。最後に、恒例のスイカ割りが行われ、子供らが頑張ったおかげでみんなでスイカを食べることができました。



このように、食べることばかりが目立ちますが、海岸で半日のんびりと過ごせる時間を組合員

に提供してくれる有意義な行事です。みなさんも、来年、是非参加されてはいかがでしょうか！

工学部分会

Y a m a g i s h i

海に行った土曜日

Y . F



とよんでくれたので、焼きそばを食べに行きました。とてもおいしくて、いっぱい食べました。その後に、すいかわりがありました。ぼくは、うまく当てたけど、すいかがきれいなので、食べませ

んでした。すいかわりをした後、海にもどってママやパパと、小さな貝が波が来た時に砂にもぐるのを見ていました。

網は引けなかったけど、海でたくさん遊べてとても楽しかったです!!!

(日記ノートより)

教研集会

「新たな昇進制度・教員評価どう考える？」

7月18日（金）の昼休みに、教研集会「新たな昇進制度と教員評価をどのように考えるか」が開催されました。

人間社会学域では、教員評価問題に加えて、教授ポストの各系への配分の際に、教員評価の一つとしてポイント制を用いるということの賛否が話題になって関心も高いことから、文教系教員を中心に46名が参加し開催されました。

まず、教員評価問題における理系と文系の状況について、旧理学部の末松さんと旧教育学の松浦さんに話題提供をしていただきました。その上で、参加者同士、意見交換を

しました。その多くは、ポイント制導入に対する意見でした。「教授昇進については客観的な基準があるべきで、その一つがポイント制である」という賛成意見もありましたが、「さまざまな研究分野があり、論文数だけで評価しにくい領域もある中で、ポイント制にあげられた基



準はすべての教員を平等に評価しているか疑問である」という

声もありました。

その中でやはり問題視されるべきは、学系会議等でこれらの問題をしっかり議論することなく、報告と意見聴

取という形で系会議に下ろされ、十分な議論をする間もなく、一部の代表委員だけで次々と重要な事項が決まってしまうことです。

重要な事項こそ、しっかり時間をかけて議論する土壌を作っていくことが民主的な大学運営につながるのではないのでしょうか。（T）

患者さん 世界の名曲を楽しむ ふれあいコンサートを開催

8月2日（土）金沢大学附属病院にて、ふれあいコンサートが行われました。今回のコンサートは、県内在住のフルート、バイオリン、チェロ、ハーブの若手女性プロ奏者4名。デュエット、トリオ、カルテットとさまざまな編成での演奏でしたので、一粒で二度おいしいグリコ?のようなお得な演奏会でした。

さわやかなで心地よいフルートの音、美しく流れるようなバイオリンのメロディ、どこか切なくそれでいて堂々としたチェロの旋律、魔法のような幻想的な響きを奏でるハーブなど、それぞれの長所を活かし合った演奏は、約160名の聴衆を魅

了していました。選曲もどこかで聞いたことのあるクラシック

や、サザンオールスターズのポップスなど、親しみが持てるものでした。

このような質の高い演奏に触れる機会は、心を豊かにし、生きるエネルギーとなります。今回のコンサートが、患者さんや教職員にとって、かけがえのない心の栄養剤と清涼剤になったと思います。今後とも多くの人に参加していただければと思います。（経済学類 Y）

